

令和 6 年 11 月臨時会 冒頭挨拶・報告要旨

（はじめに）

関西広域連合議会令和 6 年11月臨時会の開会に当たり、議員の皆様にご敬意と感謝を申し上げます。

挨拶に先立ち、去る15日に薨去されました、故崇仁親王妃百合子殿下に対しまして、謹んで衷心より哀悼の意を表します。

それでは、8月定例会以降の主な取組について御報告します。

（大阪・関西万博）

第1は、大阪・関西万博に関する取組です。

10月4日、関西パビリオンの建物が無事竣工しました。議員各位には、同月23日の内覧会にご参加いただき、ありがとうございました。各種メディアにも内覧会取材いただき、関西パビリオンの認知度の向上や大阪・関西万博の機運醸成を図りました。

今月からは、府県ゾーンの展示作業に取りかかっており、来年春の開幕に向け、準備が着実に進んでいることをご報告申し上げます。

また、関西広域連合の構成府県市では、万博への教育旅行の実施に向け取り組んでいます。3月の万博会場建設現場でのメタンガス爆発事故の発生を受け、安全・安心で充実した教育旅行を実施できるよう、7月の博覧会協会への緊急の申入れに続き、10月17日には国に対しても、安全対策の徹底等について申入れを行いました。

来場者に心から万博を楽しんでいただけるよう、今後も万博における安全対策に万全を尽くしてまいります。

（能登半島地震被災地の復興支援）

第2は、能登半島地震被災地の復興支援です。

令和6年能登半島地震に対して、関西広域連合では災害対策支援本部を設置し、被災市町への職員の派遣や物資の輸送、給水、上下水道の復旧等の支援を行ってまいりました。これらに加えて、被災地の伝統工芸を含む産業面や、水産物をはじめとする食の面でも復興を後押しするため、構成団体及び連携団体では石川県特産品の販売会やふるさと納税の代理受付など様々な取組を進めています。被災地に寄り添った取組を関西広域連合全体で共有し、相互に連携しながら復興を支援してまいります。

（広域観光・文化の振興）

第3は、広域観光・文化の振興です。

令和7年4月から5年間を計画期間とする「第3期関西観光・文化振興

計画（仮称）」について、中間案を取りまとめました。10月12日の産業環境常任委員会での御意見やパブリックコメント等を踏まえながら、今年度末の策定を目指します。

また、11月13日と14日の2日間、シンガポールにおいて、西脇副広域連合長をトップとする訪問団による観光プロモーションを実施し、大阪・関西万博への来場や関西広域周遊を促す取組を行いました。

今回の訪問を契機に、シンガポールで構築したネットワークを活用し、万博を含めた関西の魅力の情報発信に努めてまいります。

また、大阪・関西万博に向けた文化発信イベント「KANSAI 感祭」は、8月の鳥取県を皮切りに、10月は和歌山、兵庫、京都、11月は徳島、滋賀と、関西各地でイベントを順次開催しています。各会場では、伝統芸能や子ども向け文化体験、関西各地への周遊イベントや博覧会協会と連携した万博PRなどを行いました。万博直前の来年2月の大阪会場に向け、伝統芸能をはじめ、関西の食、ものづくり作品展やリサイクルアート展など、引き続き関西の文化力の向上や地域の活性化、万博に向けた機運醸成に取り組んでまいります。

（広域産業の振興）

第4は、広域産業の振興です。

関西のものづくり産業の魅力を発信するため、9月21日からの3日間、関西国際空港において、地場産業や伝統工芸等を紹介するイベントを開催しました。今回は、災害復興支援のため石川県にもご参加いただき、製品展示や製作体験を通じて、海外を含む多くの観光客の方に、ものづくりの魅力に触れていただきました。

また、ライフサイエンス分野における関西の認知度を高めるため、10月9日からの3日間、横浜で開催されたアジア最大級のバイオテクノロジー展「BioJapan2024」に参加しました。プレゼンテーションセミナーや関西広域連合ブースでの域内12企業の紹介等を通じて、関西の強みやポテンシャルを発信するとともに、国内外の関連企業等とのマッチング促進に取り組み、域内企業の新たなビジネス展開につなげました。

（持続可能な関西の実現）

第5は、持続可能な関西の実現です。

令和3年度に発出した「関西脱炭素社会実現宣言」から3周年を迎えました。関西全体の脱炭素に関する取組が一層推進されるよう、今年度は11月と12月を推進期間とし、「KANSAI脱炭素months」と銘打って展開するとともに、期間中のメインイベントとして、11月12日に「関西脱炭素フォーラム2024」を開催しました。

また、12月9日には、カーボンニュートラルに資する技術について、大学、試験研究機関等の研究成果を域内企業に発信するフォーラムを開催し、企業のカーボンニュートラル関連事業への参入や、自社技術の新たな展開を促進してまいります。

（広域インフラの整備促進）

第6は、広域インフラの整備促進です。

北陸新幹線の全線開業がもたらす意義や効果について、広く関西の皆様にご知っていただくことを目的に、9月17日に大阪市内で、関西経済連合会等と共にシンポジウムを開催し、当日は会場とオンライン視聴を合わせて400人を超える方々にご参加をいただきました。

また11月14日には、東京都内で、建設促進総決起大会及び要請活動を行いました。沿線自治体や経済団体等と一致団結し、敦賀・新大阪間の令和7年度の新規着工予算の確保などについて、政府や関係省庁へ強く働きかけを行いました。

（地方分権改革の推進）

第7は、地方分権改革の推進です。

昨年12月の第33次地方制度調査会答申では、関西広域連合の設立以来13年にわたる取組実績が評価され、東京圏の都県等と国とが協議により調整を行う枠組みが考えられるのと同様に、関西圏についても、「新たに何らかの枠組みを設けることも考えられる」との記述がなされました。

この答申を踏まえ、去る11月7日、村上総務大臣に対し、大規模災害等の発生時における「関西広域連合と国が協議により調整を行う新たな枠組み」の設置を求める提言を行いました。提言では、関西圏への首都機能バックアップ構造の構築や、防災庁の創設など防災対策等について、平時からこの枠組みを活用し、協議・調整を行っていくことなども求めています。

引き続き、地方分権改革の推進に向け、国への働きかけに粘り強く取り組んでまいります。

（広域的な流域対策）

第8は、広域的な流域対策です。

昨年9月に立ち上げた「いのち育む“水”のつながりプロジェクト」の一環として、万博開幕200日前の9月25日に、琵琶湖畔で清掃活動を実施しました。これまでも、開幕500日前、400日前、300日前の節目に実施してまいりましたが、今回は、サイクリングや俳句などを掛け合わせて、清掃活動を楽しみながら行うこととし、当日は私も参加して、小学生や高校生を含め、様々な団体の皆さんと一緒に取り組みました。

こうした取組が、万博のレガシーとして継続されるよう、引き続き、上下流で連携・協力できる取組を展開してまいります。

（D Xの推進）

第9は、D Xの推進です。

関西経済連合会等と連携し、10月に関西広域でのD X推進強化月間「関西デジタル・マンス」として、官民連携による様々な取組を実施しています。関西広域連合では、今年度新たに、産学官の様々な事例から学び、これからの自治体D Xを考える「自治体D X推進セミナー」を開催しました。

また、「関西広域データ利活用 官民研究会」では、行政課題を解決するモデルケースの創出に向け、検討を重ねています。

引き続き、官民が連携し、相互に高め合うことにより、D Xを先導する関西を目指してまいります。

（おわりに）

本日は、令和6年8月定例会提出の第11号議案「令和5年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件」を御審議いただきます。

議員の皆様におかれましては、御審議をよろしくお願いします。